　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〔David　Harvey〕第3節のマルクスの目標は「貨幣形態の起源」を説明することである。には大切な材料が託宣ふくまれている。「木を見て森を見ない」という批判がある。

第3節　価値形態または交換価値

〔的場〕「資本論」で最も難解なところである。商品から貨幣を導出する。労働力を商品であると見る人はいない。貨幣を見てそれが商品だと思う人もいない。「すべてが商品に還元される」というのだから、この難問をクリアしなければ、そこから生まれる資本も、資本が動かす労働力商品の謎もわからない。大きなヤマである。

使用価値は簡単に理解できるが、商品のどこを叩いても価値は何も出てこない。どうしたらよいか。ほかの商品と対峙させてみたら価値がわかる、という。

〔ryoゼミナール参照〕表題の「価値形態または交換価値」とは、簡単に言えば、商品に内在する価値が表に出てきたもの、すなわち価値の現象形態である。それは、抽象的人間労働が凝固したものである。価値は本質であり、商品に内在するが、目には見えない。

この内在的価値が外在化して、外に現れた物が価値形態または交換価値である。

マルクスは「貨幣の謎」（＝お金を出せばなんでも買える）を解き明かすためにお金をいくら眺めていてもわからない。物々交換、つまり商品にまで戻って考えよ、と言っている。商品の価値はその生産に必要な労働の量によって決まる。しかし、直接に労働量を表わすことはできない。

商品の価値は、ほかの商品との交換の中で現れる。交換のさい、商品がどういう形で表されるかを考えるのが価値形態論である。この形態を「追跡」していくことでマルクスは「貨幣の謎」が解けるという。商品交換から貨幣の発生を立証する。

p.87　商品は、使用価値または商品体の形態で、鉄、リンネル、小麦などとして、この世に生まれてくる。これが商品のありふれた自然形態である。とはいえ、商品が商品であるのは、それが二重のものであり、使用対象であると同時に価値の担い手であるからにほかならない。だから、商品は、自然形態と価値形態という二重形態を持つ限りでのみ、商品として現れ、言い換えれば、商品という形態をとるのである。

〔浜林〕商品は、ありふれた具体的ものと価値の担い手として、すなわち自然形態と価値形態という二重形態をもって現れてくる。

「自然形態」：商品は具体的な形をとって現れる。自然のまま、商品のままの形の意味。

これはウーロン茶です。→自然形態

「価値形態」：商品は支出された労働力の塊り。商品は価値の塊りである。価値は値段という形をとって現れる。（厳密には価値≠値段）

ウーロン茶が110円です→価値形態

（価値形態はつかまえにくい）

p.87　商品の価値対称性は、どうつかまえたらいいかわからないことによって寡婦のクイックリーと区別される。

‥価値のこの現象形態に立ちかえらなければならない。

〔浜林〕「寡のクックリー…」：酒場の女将のクイックリーの尻を追いかけている男が「つかまらない」というと、クイックリーが「そんなことないよ。つかまえてごらん」と言い返す話。**対称－国語的には「**ものとものとが互いに対応しながらつりあいを保っていること」「左右対称」など。

〔浜林〕「対象」というのは相手のこと。向かい合っているものの意味である。目の前にある商品は、使用価値（＝自然形態）として社会的にみると、感性（さわる、なめる、たたくなど）で確かめられる感性的な〝相手〟である。価値としてみると、どんなにひねくり回して捕まえようがない。その価値は、ほかの物と交換してみなければわからない〝相手〟である。ここでいう商品体とか、自然形態とは使用価値としてみた商品のことである。

p.88　「価値としての商品の価値対象性」は、ただ商品と商品との社会的関係においてのみ現れる。

〔David Harvey〕決定的なポイントである。価値は、非物質的だが対象的〔客観的〕なのである。価値は社会的関係である。社会的関係は実際には直接見たり、触ったり、感じることはできない。しかし、それは対象的存在である

　マルクスが提示しているのは、次のような考えである。

　価値は非物質的であり、それを表現する手段がなければ存在しえない。それゆえ、価値（社会的必要労働時間としてのそれ）を交換関係の規制者にしているのは、貨幣制度の出現、すなわち、有形の表現手段としての貨幣形態そのものの出現である。

　社会的必要労働時間としての価値は、資本主義的生産様式に特殊歴史的なものである。それゆえ市場交換が必須の仕事をしている状況においてのみ発生する。

　マルクスの分析からは、二つの結論と一つの大問題が生じる。

1. 交換関係は、深部の価値構造の付随的表現であるどころか、価値との弁証法的関係の中に存在するのであり、交換関係が価値に依存しているのと同じく、価値もまた交換関係に依存していること。だろう。
2. 価値概念が非物質的（まぼろしのような）だが、対象的であるという地位にあるということである。価値を直接的に測ろうとする試みは失敗する。

大きな問題は、貨幣表現は、価値の表現としてどれほど信頼でき、性格なのかということにと関連している。いいかえると、非物質性（価値）と対象性との関係は（価値の貨幣表現によってとらえられるものとしてのそれ）が現実にどのように展開されるか、という問題である。

（貨幣形態として現れる）

p.88　しかし、いまここでしなければならないことは、ブルジョア経済学によって決して試みられることのなかった、すなわちこの貨幣形態の発生を立証すること、すなわち諸商品の価値関係に含まれている価値表現の方法を、そのもっとも簡単なもっともめだたない姿態から目をくらませる貨幣形態にいたるまでを追跡することである。しれによって同時に、貨幣の謎も消え失せる。

〔浜林〕「ほかのことは知らなくても……」：商品はありのままの現物形態とは別に、500円とか1ドルというかたちで価格形態をもっている。物には値段あると言っている。

　「貨幣形態の発生を立証する」: 貨幣がいかにして商品世界の中から生み出されるか、明らかにする。そのために「もっとも目立たない姿態から目をくらませる貨幣形態に至るまで」「諸商品の価値関係に含まれている価値表現の発展を追跡する」と言っている。

「貨幣の謎」：お金を出すとどうして物が買えるかということ。これを立証するためには、なぜ、貨幣が生まれてくるのかを調べていかなければならない。貨幣から離れ、物と物との交換＝物々交換に戻って調べていく。金貨も銀貨も、お札（紙切れ）をいくら眺めていても、「お金の謎」はわからない。お金ではなく、商品に戻っていかなければならない。

商品の価値はその生産に必要な労働量で決まるが、これを直接に労働量で表すことはできない。商品の価値は、ほかの商品との交換の中で現れる。これを考えるのが価値形態論

である。

商品と商品の交換にはさまざまな形態がある。もっとも簡単でしかも基礎的なものは、「商品Aに対する商品Bとの関係」である。マルクスは、この価値形態から価値表現の基本的なメカニズムを明らかにすると言っている。

〔David　Harvey〕（マルクス論建）私がある商品をもっている。あなたは別の商品をもっている。私のもっている商品の相対的価値は、あなたがもっている商品の価値（労働が投入されているもの）の観点から表現される。したがってあなたの商品は、私の商品の価値尺度となる。この関係をひっくり返すと、私の商品はあなたの商品の等価価値とみなすことができる。

　単純な物々交換の状況においては、商品をもっている人は誰でも相対的価値ある物を持っており、他の商品の中にその等価物を探す。人々と交換の数に等しい多くの商品があるため、商品と交換の数に等しい多くの等価物がある。

　ここでマルクスが実際に示したいことは、交換行為は常に二重の性質―相対的価値形態と等価形態という両極―をもっており、その中で等価形態は「抽象的人間労働の具体化」として現れるということである。

　使用価値と価値の対立は、これまで商品の中に内包されていあたのだが、使用価値である一つの商品と、交換の中でその価値を表現する別の商品との「一つの外的な対立によって‥表される」ようになる。　

ｐ.89　Ａ　簡単な、個別的な、または偶発的な価値形態

ｘ量の商品Ａ＝ｙ量の商品B　すなわち、 ｘ量の商品Ａはｙ量の商品Bに値する。

（20エルのリンネル＝1着の上着　すなわち、20エルのリンネルは一着の上着に値する）

二つを仮に（1）式および（1）´と呼ぶ。

ｘ量の商品Ａ＝ｙ量の商品B

すなわちｘ量の商品Ａはｙ量の商品Bに値する………（1）式

（20エルのリンネル＝1着の上着すなわち、20エルのリンネルは一着の上着に値する）………（1）´

１　価値表現の両極 ― 相対的価値形態と等価形態

p.89すべての価値形態の秘密は、この簡単な価値形態のうちに潜んでいる。だから、この価値形態の分析には真の困難がある。

‥第一の商品は能動的役割を演じ、第二の商品は受動的役割を演じている。第一の商品の価値は相対的価値として表されている。すなわち、この商品は相対的価値形態にある。

〔浜林〕リンネル：麻織物。リネン室とは病院の麻のシーツなどをしまっておく部屋。

能動的－国語的な意味合い。自分から他へ働きかける。働きかける対象がある。

受動的－他から働きかけを受ける。

「ｘ量の商品Ａはｙ量の商品B」：これが、最も簡単な価値形態の形である。Ａは相手の商品Ｂによって自分の価値を表している。他のものによって、自分の価値を表すという意味で、マルクスはこれを相対的価値形態と定義した。

（等価形態）

第二の商品は等価物として機能する。すなわち等価形態にある。

〔浜林〕「…リンネルの価値は、相対的に、すなわち他の商品でしか、表現されえない」：自分自身では自分の価値を表すことはできない。商品Ｂの方は、A商品の価値を表す役割を演ずるので、それを等価形態と定義した。他の品物の価値を自分で表す。つまり、○○は○○に等しいという形である。

〔的場〕価値を測るのが等価形態。価値を測ってもらうのが相対的価値形態。

ｘ量の商品Ａがｙ量の商品Bで表される。だからｘ量の商品Ａが自らの価値と等しいｙ量の商品Bを等価形態として使いながら、自分の価値を測っている。その意味で、商品Bによって測られる価値の形態のことを相対的という言葉で表現している。なぜ、二つを区別するのか。価値を測る商品Bという等価形態は、普通の商品と違って、その素材で価値を測ることで、商品Aとはまったく違った役割をしているからである。

〔David　Harvey〕私がある商品をもっている。あなたは別の商品をもっている。私のもっている商品の相対的価値は、あなたがもっている商品の価値（労働が投入されているもの）の観点から表現される。したがってあなたの商品は、私の商品の価値尺度となる。この関係をひっくり返すと、私の商品はあなたの商品の等価価値とみなすことができる。

相対的価値形態と等価形態とは、同じ価値表現の、互いに依存しあい、互いに制約し合う、不可分の、契機であるが、互いに排除し合う、あるいは対立し合う、両極端、

‥したがって、リンネルの価値は、ただ相対的に、すなわち他の商品でしか、表現されえない。

〔浜林〕「同じ商品は同じ価値形態においては同時に両方の形態で現れることはできない」：AとＢはひっくり返すことはできる。AはA、ＢはBであるは無意味である。同時に両方を表すことはできない。

「たがいに補足し合う」：Aだけ、Bだけでは決して価値表現は行えない。ｘＡ＝ｘAは単

に使用価値の表現にすぎず、Aの価値はまったく表現されていない。

したがって同じ商品は同じ価値表現においては同時に両方の形態で現れることはできない。この両形態は、むしろ対極的に排除し合うのである。

〔浜林〕対極的に排除し合う」：片方にAが出てくれば、もう一方にAは絶対に表れることはできない。同時に同じ位置を占めることはできない。AとBが相対的価値形態にあったとすれば、価値表現の材料として役立つ商品がなくなり、価値表現は不可能となる。

ｘ量の商品A＝ｙ量の商品B　ｘA＝ｙBは数学の方程式とは性格がいちじるしく違う。数学の方程式は右辺と左辺を入れ替えても同じ意味を持つ。

　価値表現ｘA＝ｙBにおいては、Aの価値が表現されている。価値表現ｙB＝ｘAはBの価値が表現されている。逆の関係にあるが、意味は異なる。

だから、ある一つの商品が相対的価値形態にあるか、それと対立する価値形態にあるかは、もっぱら価値表現におけるそのつどの位置 ― その商品は、その価値が表現される商品なのか、それでもって価値が表現される商品なのか ー 次第である。

〔浜林〕簡単な価値形態では、等価価値であってモノサシ役をつとめる商品は、上着1着とか5着とか、その商品の現物形態そのものによって価値の量を実現している点にある。すなわち、「使用価値がその反対物の、価値の、現象形態になる」。

これを商品をつくる労働の性格にまで掘り下げると、これは、上着をつくるという「具体的労働」が、「その反対物の、抽象的人間的労働の現象形態になる」ことにほかならない。

ある商品が、現物のままで価値を体現するという形態になる事態はもっとも簡単な価値関係、物々交換の段階ですでに現れてくる。すなわち、貨幣の萌芽、未発展の形態である。

「ある商品が…」を「金（きんという商品）が…」と言い換えると、貨幣の萌芽のの意味が理解できる。（ryo）

p.91　２　相対的価値形態

ａ　相対的価値形態の内実

内実：英訳では「この形態の性質と意味」と表現されている。（宮川實、「資本論学習要綱」）

〔浜林〕商品Aを自分と置き換え、B君の偏差値50で比較する。＝なら、自分の偏差値は50とわかる。すべての人間は比較によって位置づけられるが、商品も同じ。商品はほかの商品と比較されたときのみ、価値を表現する。上着は上着という素材でリンネル価値を表現している。

（価値鏡）

p.91 ある一つの商品の簡単な価値表現が二つの商品の価値関係のうちにどのように潜んでいるかを見つけ出すためには、この価値関係をさしあたりその量的関係からまったく独立に、考察しなければならない。

〔浜林〕「量的関係からまったく独立して」とは、「x量の商品A＝y量の商品B」からⅹ量、ｙ量を抽象して質的側面であるA＝Ｂが成立する根拠を説明することである。

人は、たいてい、これと正反対のことを行っており、価値関係のうちに、二種類の商品の一定分量どうしが等しいとされる割合だけを見ている。見落とされているのは、異なった物の大きさは、それらが同じ単位の〔統一体〕に還元されてはじめて、量的に比較されうる、ということである。

〔浜林〕二種類の商品の一定分量どうしが等しいとされる割合とは、例示の20エルのリンネル＝1着の上着における「=」の等式となる。

A＝Bが成り立つのは、商品AとBは質的には両者に共通な抽象的人間労働の産物ということがある。

しかし、質的に等置された二つの商品は同じ役割を演じるのではない。リンネルの価値だけが表現される。では、どうしてか？リンネルが、その「等価物」としての、またそれと「交換されるもの」としての上着にたいしてももつ関連によって、である。

〔浜林〕等置（「＝」）された二つの商品、すなわち「20エルのリンネル＝1着の上着」は同じ役割を演じるわけではない。リンネルの価値だけが表現される。なぜか…。「リンネルが上着にたいしてもつ関連」によって「上着が価値の存在形態として価値物として通用する」のとして「上着はリンネルと同じもの」である。

他方、リンネルは一つの自立的表現を受け取る。「価値としてのみ」「リンネルは等価物として」「交換されうるもの」として上着と関連している。

「価値鏡」とは、自分を相手に映すことにより自分を表現することができるということ。以下、抽象的人間労働に還元されて、その比率を通して自分の価値を他の商品で表すことができる。いろいろな事例で説明している。

たとえば、酪酸は、蟻酸プロピルとは異なる物体である。

〔的場〕酪酸＝蟻酸プロピル。異なる物体であるが化学方程式C4H8O2に分解してみれば、両者は同じものだとわかってくる。

p.92　われわれが、価値としては、諸商品は人間的労働の単なる凝固体である…

〔浜林〕「単なる凝固体である」：人間労働という両方に商品に共通の性格があって、その共通の性格に還元されることにより、交換の尺度が与えられると言うこと。

p.94　‥人間的労働は、価値を形成するけれども、価値ではない。それは、凝固状態において、対象的形態において、価値になる。

〔浜林〕「対象的形態において価値になる」：労働そのものが価値になるのではく、それが固まった形で、あるいは、対象化された形で他の物に表されたときに、それは価値になる。

　Aという商品の価値は、相対的価値形態にある場合には、他の商品を通して自分の価値を表わすことができる。逆に言うと、Bの形態の自然形態つまり商品ですが、そういうもの

の中にA価値が表れてくる。

97　したがって、価値関係の媒介によって、商品Bの自然形態が商品Aの価値形態となる。言い換えれば、商品Bの身体が商品Aの価値鏡となる。商品Aが価値体としての人間的労働の体化物としての、商品Bに関連することによって、商品A は、使用価値Bを、それ自身の価値表現の材料にする。

　商品Bというものに映し出されて商品Aの値打ちがわかる、ということ。

b　相対的価値形態の量的規定性

〔浜林〕ここでは商品A の価値は、商品B の使用価値で表現され相対的価値形態が、どう量的に変わるのかを4例で説明している。

ｐ.97　したがって、価値形態は、単に価値一般だけではなく、量的に規定された価値、すなわち価値の大きさをも表現しかなければならない。

‥「20エルのリンネル＝1着の上着　すなわち、20エルのリンネルは一着の上着に値する」という等式の前提にあるのは、1着の上着には20エルのリンネルに潜んでいるのとまったく同じ量の価値の実体が潜んでいるということ‥

〔浜林〕価値形態は価値量をも表現しなければならない。労働の生産力が変動すると価値量の相対的価値表現が変わる。

20エルのリンネル(A)＝1着の上着(B)

（等式は「20エルのリンネルは一着の上着に値する」ことを意味している）

〝肝〟はAの数値をBの変動で表すのだが、Aは20エルのリンネルで変わらない。グラグラしない。あくまでもBの量が違って出てくるということ。

p.98　Ⅰ　リンネルの価値は変動するが、上着価値は不変のままである場合。

‥商品Aの相対的価値、すなわち商品Bで表現される商品Aの価値は、商品Bの価値が不変のままでも商品Aの価値に正比例し、上昇または低下する。

〔浜林〕❶リンネル（A）の価値が変動する。上着（B）の価値は変わらない。Aの価値は変わっているが、それがBの変化として表されるというのが、相対的価値形態と等価形態の関係です。等価形態とはAの価値を表わすものです。

リンネル(A)の生産に2倍の労働時間が必要になった。リンネル（A）の価値は投入された労働時間が2倍なので価値も2となった。上着からみると、1着の上着は20エルのリンネルの半分の労働時間でつくられている。「20エルのリンネル＝1／2着の上着」の等式が成立する。

Aの価値がどういうBの価値で表されるかというかことだが、Aがグラグラしてはいけない。Aは20Aでなければならない。Aの価値の変わり方をBが表すということ。Aの価値が2倍になると20A は２Bで表され、Aの価値が半分になると20Aは1/2Ｂで表される。

p.98　Ⅱ　リンネルの価値は不変のままであるがの価値、上着価値が変動する場合.

〔浜林〕❷リンネルの価値は不変のままであるが上着価値が変動する。Aは20AのままとしてBの価値が半分に変われば、2Ｂ，Bの価値が倍になれば1／2Bになる。

Ⅲ　リンネルおよび上着の生産に必要な労働分量が、同時に同じ方向に、同じ比率で変動することもある。

❸ AとBが同じ方向で変動する。Aの価値が2倍になり、同じ比率でBの価値が2倍になれば、方程式はまったく変わらない。

Ⅳ　リンネルの価値および上着の生産にそれぞれ必要な労働時間、したがってこれらの商品の価値が、同時に同じ方向に、しかし等しくない程度で変動するか、あるいは反対の方向に変動する等々のことがありうる。この種のありとあらゆる組み合わせがある一つのを商品相対的価値に与える影響は、Ⅰ、Ⅱ、およびⅢの場合を応用すれば、簡単にわかる。

‥そして、最後に、ある商品の価値の大きさとこの価値の大きさの相対的表現とが同時に変動してもは、二つの変動が一致する必要は少しもない。

❹　❶～❸の応用。

3　等価形態

〔浜林〕等価形態にある商品は自分で自分の価値を表わすことはできない。それは、等価形態にあるということは、他の商品の価値を表わす働きをしているということ。

p.101　われわれは次にことを見てきた。―　1商品A(リンネル)は、その価値を異なる種類の一商品Bの使用価値（上着）で表現することによって、商品Bそのものに、一つの独自な価値形態、等価物という形態を押しつける。

p.102　二着の上着は、40エルのリンネルの価値の大きさを表現することはできるが、それ自身の価値の大きさ、上着の価値の大きさを表現することは決してできない。

〔浜林〕「価値等式における等価物」：2着の上着の価値を自分自身が表現することはできない。2着の上着は、2着の上着だと言わざるを得ない。

紅茶は100円である。貨幣形態で表されている。100円はいくらという質問は成り立たない。100円は100円であるという以外にない。逆に100円はこの缶の紅茶ですは成り立つ。この場合は、等価形態と価値形態が入れ替わる。

（第1の独自性）

等価形態の考察にさいして目を引く第一の独自性は、使用価値がその反対物である価値の現象形態になることである。

商品の自然形態が価値形態になるのである。だが、注意せよ。この〝入れ替わり〟（guid por quo）は、一商品B(上着、または小麦、または鉄など)が商品Bと取り結ぶ価値関係の内部でのみ、この関連の内部でのみ生じる。

〔浜林〕A(リンネル)＝B(上着)　リンネルは自らの価値を上着で表現することで、上着に等価物という価値形態を押しつけている。リンネルの価値は上着の使用価値で表される。

リンネルは、上着のままで、リンネルと等しいとされることにより、上着の価値存在を現出させる。上着は直接にリンネルに交換されうる存在である。

「注意せよ」：これは、AとBとの交換関係のなかで起きていること。B（上着）のなかに自然に備わっている性質ではない。

マルクスは伏線を敷いている。金や銀はそれ自体値打ちをもっていているから何らかのものと交換できるいう人がいる。金や銀にそんな性質はない。交換関係のなかでだけ、交換できる性質が現れてくる。

p.103　このことをわかりやすくするのは、商品体としての ー すなわち使用価値としてのー 商品体に適用される尺度の例であろう。

‥純粋に社会的なものでそれらの価値を代表する。

〔浜林〕「尺度」：ものさし。ものさし自体が他の物をはかるという性質をもっている。

等価形態にある商品はその商品自体として物をはかる性質をもっているわけではない。鉄と砂糖が比較できるのは、両方に共通する尺度（重さ）があるからである。上着とリンネルの場合は、上着とリンネルの中に価値をはかる性質があるからではなく、社会的関係の

なかで価値が表れる、といっている。

P,104　上着もまた、その等価形態を、直接的交換可能性というその属性を、重さがあるとか寒さを防ぐとかというその属性と同じように、生まれながらにもっているかのように見えるのである。

‥彼は金銀の神秘的性格を消しさろうとして、金銀の代わりに目をくらませることの少ないいろいろな商品をこっそりもってきて‥

〔浜林〕「金銀の神秘的性格」：金銀は、重さや美しさや固さとかの属性と同じように交換可能性という属性をもっているように見える。しかし、その可能性は金銀に自然にそなわっているものではなく、社会的な関係のなかで出てくる。こう見ることによって「金銀の神秘的性格」というものが、消え去ってしまう。

p.106　等価物として役立つ商品の身体は、つねに、抽象的人間的労働の体かとして通用するし、つねに、一定の有用的具体的労働の生産物である。したがって、この具体的労働が抽象的人間労働の表現になるのである。

〔浜林〕社会的関係のなかではじめて等価物として機能する。社会的関係を抜きに等価物は成り立たない。この点が等価形態の第1の独自性である。

（第2の独自性）

したがって、具体的労働がその反対物の、抽象的人間的労働の現象形態になるということが、等価形態の第二の独自性である。

〔浜林〕第1の独自性では、ある商品（上着）の使用価値が、リンネルの価値を表わすものとなる、としていた。

　第2の独自性は、労働で表現している。つまり、上着をつくる労働が抽象的労働を表わすものとなる、とする。つまり、価値を表わすものとなる。

第1と第2は同じこと。第1は商品の性質に即しての説明であり、第2は労働に即しての説明である。

（第3の独自性）

したがって、私的労働がその反対物の形態、直接に社会的な形態にある労働になるということが、等価形態の第三の独自性である。

〔浜林〕「私的労働が…」：ここで言う、私的労働の意味は、上着を「売ってお金に替える」ためにつくるということ。誰かにタダで着せるためという意味ではない。つくるのは、自分の個人的労働だが、売りに出され、他の物と交換されてはじめて社会的労働になる。つまり、社会全体の一部分を担う。これは分業と同じ話である。

　ある人は米、ある人は鉄をつくる。他人のためではなく、自分のために仕事をしている意味で私的労働であり、私的生産物である。しかし、お互いに交換されることにより、結びつくのであって、それによって社会全体を存在を支えるものとなる。

商品生産の社会（資本主義社会）は、私的な労働が直接社会的な労働になるという形で結びついている社会である。

p.107　最後に展開された等価形態の二つ独自性は…

（アリストテレスの限界）

　アリストテレスは、まず第一に、商品の貨幣形態は、簡単な貨幣形態の、すなわち、なにか任意の他の一商品による一商品の価値の表現の、いっそう発展した姿態にすぎないということを、はっきりと述べている。

〔浜林〕「5台の寝台＝一軒の家」ということは、「5台の寝台＝これこれの額の貨幣」というのと「区別されない」と。

「5台の寝台＝一軒の家」「5台の寝台＝これこれの額の貨幣」：アリストテレスは貨幣の基には、物の交換があるということを表現している。だが、「なぜ交換されるのか」はわからず、挫折している。寝台や家をつくる労働は、奴隷の労働だった。共通の平均的な抽象的

な人間労働は出てこないからである。

（平等な人間関係が基礎）

p.109　しかし、商品価値の形態はにはすべての労働が同等な人間的労働として、したがって、等しい妥当性をもつものとして、表現されていることを、アリストテレスは価値形態そのものから読みとることができなかった。なぜなら、ギリシャ社会は奴隷労働を基礎としており、したがって、人間およびその労働力の不平等を自然的基礎としていたからである。

〔浜林〕奴隷労働はいくら働いてもタダ働き。奴隷同士の労働、奴隷と自由人の労働力の不平等を基礎にして等価形態は起こり得ない。AとBは貨幣に替えられることは指摘したが、その共通の基礎に平均的、抽象的人間労働があることまで読み切れなかった。。

価値表現の秘密、すなわち、すべての労働の同等性および同等な妥当性 ― それが人間的労働一般なのあるから、またその限りで　―　は人間の平等の概念がすでに民衆の先入見にまで定着するようになるとき、はじめて、解明することができる。しかし、それは、商品形態が労働生産物の一般的形態であり。したがってまた商品所有者としての人間相互関係が支配的な社会関係である社会において、はじめて可能である。アリストテレスの天才は、まさに、彼が諸商品の価値表現のうちに、一つの同等性関係を発見している点において輝いている。

〔浜林〕人間が平等な労働者として商品を生産していることが、一般的になるまでは、共通の基礎は発見できない。つまり、資本主義社会にならなければ…ということ。

（資本主義社会は価値法則が貫かれているわけではない。差別がある）

　「アリストテレスの天才」：諸商品のうちに「同等性」つまり、「等しい関係」を発見した…。

4　簡単な価値形態の全体

p.119　ある一つの商品の価値形態は、異なる種類の一商品にたいその商品の価値関係のうちに、あるいはそれとの交換関係のうちに、含まれている。

　商品は使用価値および交換価値であると言ったが、これは厳密に言えば、誤りであった。商品は使用価値または使用対象、および「価値」である。

　p.111　‥一商品の簡単な価値形態は、その商品に含まれている使用価値と価値との対立の簡単な現象形態なのである。

　B　全体的な、または展開された価値形態

Z量の商品＝u量の商品B または＝V量の商品Cまたは＝W量の商品DまたはX量の商品Eまたは＝等々

（20エルのリンネル＝一着の上着　または＝10ポンドの茶　または＝40ポンドのコーヒー　または＝1クォーターの小麦　または＝2オンスの金　または＝１/2トンの鉄　または＝等々）

〔浜林〕A、B二つの商品から、たくさんの商品が現れる。

１　展開された相対的価値形態

p.114　‥商品としては、リンネルはこの商品世界の一市民である。

〔浜林〕いままでの簡単な価値形態はAとBの二つの商品しか現れていない。こんどは、たくさん現れてきた。簡単な価値形態は、物々交換、偶然的な交歓形態によって成り立つ。たまたま。上着とリンネルがそれぞれの要求で交換される。

　実際社会では偶然ではなく、交換が亡ければ社会は成り立たないので、交換は全体的に展開されるようになる。

「商品としては，リンネルは商品世界の一市民である」：商品世界とは、すべてが商品で成り立っている。リンネルはその中のほんの一部にすぎない。

p.115　20エルのリンネル＝1着の上着という第一の形態においては、これらの二つの商品が一定の量的比率において交換されうるものだということは、偶然的な事実であるかもしれない。

〔浜林〕無数の商品が現れてくると、商品と商品の関係は偶然的な関係ではなくなって、社会的な関係になってくる。

〔的場〕「価値関係を通して、商品Bの自然形態は商品Aの価値形態になる。あるいは、商品Bの身体は、商品Aの価値を映す価値の鏡となる」の解釈。

一方の価値が、他方の使用価値であることの注意が必要である。上衣がどれほどのリンネルの価値を表現するかという量の問題をみる。20エルのリンネル＝1着の上着。これは、質ではなく量を表わしている。これは、その生産に必要な労働時間を示しているから、生産力の変化とともにこの量は変わってくる。

2　特殊的等価形態

p.116　上着、茶、小麦、鉄などという商品はリンネルの価値表現においては、どれも等価物として、したがって、価値体として、通用する。これらの各商品の特定の自然形態は、いまや、他の多くの特殊的等価形態とならんで一つの特殊的等価形態である。

〔浜林〕相対的価値形態はリンネルである。リンネルの価値は、上着で表したり、お茶、小麦、金、迭などいろいろなもので表します。相対的価値形態にあるものは一つだが、等価携帯にあるものがたくさん出てきた。これが「全体的に展開された価値形態」である。

3　全体的な、または展開された価値形態の欠陥

　第一に、商品の相対的価値形態は未完成である。

第二に、この連鎖は、ばらばらな、さまざまな種類の価値表現のモザイクをなしている。

‥無数の他の特殊敵等価形態とならぶ一つの特殊敵等価形態

〔浜林〕「未完成である」：等価形態にある商品は、無数にある。つながり方におしまいがない。

「欠陥」：これでは経済学的に分析できないという意味。

「……モザイクをなしている」：リンネルの価値は雑多に表わされ、統一的などこにでも適用できるものが現れていない。

「特殊的等価形態」：一つひとつの品物が等価形態をとっていて、数限りない。どれの一般的に通用するものではなく、特殊なもの。すなわち、特殊的等価形態である。

「藩札」は特殊的等価物日銀券、金貨、銀貨が発行されて一般的等価形態、一般的等価物が成立する。物々交換→特殊的等価物→一般的等価物

p.118　C　一般的価値形態

1着の上着＝10重量ポンドの茶＝40重量ポンドのコーヒー＝1クオーターの小麦　　 ＝20エルのリンネル2ポンドの金＝1／2トンの鉄＝X量の商品A＝等々の商品＝

〔浜林〕一着の上着と並ぶ商品が全部20エルのリンネルと交換されるといっている。

１　価値形態の変化した性格

（共通の価値表現）

p.119　商品は、それぞれの価値を、いまや

（一）簡単に表している、なぜなら、ただ一つの商品で表しているからであり、かつ（二）統一的に表している、なぜなら、同じ商品で表しているからである。

〔浜林〕「簡単」に表している：ただ一つの商品で表しているから。つまり商品の価値がAという商品であらわされているから簡単といっている。

「統一的」に表している：同じ商品で表しているから。すべてのものが、Aで表されている。簡単で統一的なものに価値形態が変化する。

　形態ⅠおよびⅡは、どちらも、ある商品の価値を、その商品自身の使用価値または商品と

は区別されたものとして表現したにすぎなかった。

〔浜林〕ここで、形態ⅠというのはA＝B、形態ⅡはA＝B、A＝C、A＝D、A＝E……のこと。

「その商品自身の…」：A商品に内在している価値をB商品の使用価値として表す。つまり、A商品の価値を、A商品の使用価値ではなく、それと交換されるB商品の使用価値で表す。

時計は時間をはかるという使用価値をもっているが、時計の価値は、字を書くという使用価値をもっている万年筆の使用価値で表される。これがA＝Bの意味である。商品体は、自分の価値を自分の体ではなく、他のものの体で表しているということ。

（価値は他の商品の使用価値で表される）

p.119 第一の形態は、1着の上着＝20エルのリンネル、10重量ポンドの茶＝1/2トン

の鉄などのような価値等式を示した。

〔浜林〕イコールという形で表された。これは、交換がときどき偶然に行われる時、こう

した形をとると言っている。

第二の形態は、第一の形態よりも完全に、

ある商品の価値をその商品自身の使用価値から区別する。

‥というのは、それぞれの商品の価値表現において、いまや他のあらゆる商品は、ただ等価物の形態でしか現れないからである。

‥たとえば家畜がもはや例外的にではなくすでに慣習的に、他のさまざまな商品と交換されるときである。

〔浜林〕形態ⅠというのはA＝B。形態ⅡはA＝B、A＝C、A＝D、A＝E……形態ⅡでAは最初はBの使用価値で表されるが、C、D、Èとなると上着の使用価値は、上着そのものの使用価値からはなれていくことになる。

上着の価値は、リンネルとかお茶とか鉄と交換されると現れてくるということ。しかし、この場合でもさまざまな商品が、まだ共通のもので表されるところにはなっていない。まだAにならなければならない理由がない。Aに固まっていない。他のものでもかまわない。ここでは、共通の価値表現が排除されている。

ある商品の価値の表され方。それは、共通の価値表現ではなく、他の商品（使用価値）として表される。つまり等価物としてであった。

「たとえば家畜が」…Aというものがだんだんと固まってくるのは、一つのものが、他のものと取り替えあられるようになってくる。つまり家畜が…。展開された価値形態がしだいに表れてくる。

（商品世界から分離された商品）

p.120 新しく得られた形態は、商品世界の諸価値を、商品世界から分離された一つの同じ商品種類、たとえばリンネルで表現し、

‥リンネルに等しいものとして、どの商品の価値も、いまやその商品自身の使用価値から区別されているだけでなく、およそ、使用価値というものから区別されており、

〔浜林〕「（Aという商品が）商品世界から分離された…」：Aは他のものと交換されるものとして使われるが、A自体を実際に使うことがなくなってくる、という意味。

商品は使用価値、交換価値の両方をもつものだが、他のすべて物と交換されるようになった品物というものは、使用価値はもたず、交換価値だけをもつようになるので、商品世界からはみ出して、特別の商品になってくる。お金は商品ではない。お金は物を買う以外、使い道がない。

（商品世界の共同事業）

p.120個々の商品の私事であり、個々の商品は他の諸商品とは無関係にそれをなしとげる

‥一般的等価形態は、商品世界の共同事業としてのみ成立する。

‥新しく登場するどの商品種類もこれにならわなければならないのである。これによって、

諸商品の価値対称性は ― それがこれらの物の単に「社会的な定在」であるがゆえに ―

諸商品の全面的な社会的関連にのみ表現されうること、

〔浜林〕「個々の商品の私事」：開された商品形態になると、かなり広がってはくるが、まだ、一般的に何と交換されるか、決まっていない。「私事」というのは、○○が欲しいなど、偶然の要求、個人の要求で決まると言っている。

「商品世界の共同事業」：「私事」ではなく、Aは他のいろいろな商品と必ず交換されるという共通性をもっようになってくる。AはDの形態で貨幣となる。

A＝B　万年筆をもつ人は、欲しい人を探さなければならない。交換はまだ偶然的である。

A＝C　A（共通する商品）をもっていれば、いろいろな物に交換できる。これを「商品世界の共同事業」と言っている。

A＝D　Aという商品が一般的価値となるのは、B、C、D、E…のすべてがAで自分の価値を表わしているからである。

「諸商品の価値対称性」：一つひとつの商品が価値として表される場合にはどう表されているか。商品が世の中に存在するのは、それが価値を表わして存在している。「社会的な定在」の意味である、価値のないものは、商品にはなれない。

「全面的な社会的関連」：すべてがAに関連していること。

（価値は社会的関連の中で実現される）

p.121 リンネルに等しいものという形態で‥…量的に比較されうる価値の大きさとしても現れる。

〔浜林〕交換される場合、量的な比較ができなければ交換できない。

(一般的等価物)

p.121 商品世界の一般的な相対的価値形態は、商品世界から排除された等価物商品であるリンネルに、一般的等価物という性格を押しつける。

‥リンネルの身体形態がいっさいの人間的労働の目に見える化身、一般的社会的孵化として通用する。

〔浜林〕「一般的な相対的価値形態」：左辺の、B、C、Dの一つが結びついている場合から。すべてがA(リンネル)に結びつく。こうなると、リンネルは商品として使われるのではなく、諸商品と交換される等価物の性格をもつようになる。

　お金は交換しなければ無意味、すなわち役だたない。これを「商品世界から排除されている」と言い方をしている。これが一般的等価物である。リンネルの自然形態が商品世界の共通な価値姿態である。

　「蛹化」：リンネルの中に、人間的労働がかたまって現れる。幼虫から蛹へ、つまり、リンネルという形をとって人間の労働が現れてくると言っている。

（具体性が消える）

p.122 そうすることによって、織布労働を人間的労働一般の一般的現象形態にする。

このように、商品価値に対象化されている労働は、現実的労働のすべての具体的労働と有用的属性とが抽象される労働として消極的に表されているだけではない。この労働自身の積極的な本性ははっきり表れてくる。この労働は、いっさいの現実的労働が人間的労働というそれらに共通な性格に、人間的労働の支出に、還元されたものである。

労働生産物を区別のない人間的労働の単なる凝固体として表す一般的価値形態

〔浜林〕リンネルをつくる織布労働という私的労働が同時にすべてのものと交換できるとなると、一般的社会的形態をとる。単に職人の個人的な仕事ではなく、社会全体に通用する労働というかたちをとるということ。

商品(リンネル)の中に表れている労働は、リンネルの布をつくるという有用性、あるいは具体性を取り去

　って、積極性な本性がはっきり現れてくる。具体性を取り去り、なんとでも交換できる積極性が出てくる。布としては洋服をつくりたい人、一般的等価物なら何とでも交換できる。積極的本性である。

「還元された」：具体的労働は異なっているが、抽象的な人間的労働力の支出という点では、共通だ。この塊りを表わしている一般的価値物が商品世界の社会的表現である。

商品は売買する品物です。売買するということは、一般的等価物と交換するということ。一般的等価物をお金と考えあると、物を売ってお金を手に入れる、そのお金でまた別の物を買う。これが交換であり、商品世界である。この一般的等価物は労働の一般的人間的性格が労働の独自な社会的性格、つまり労働が私的なものではなく、社会的に通用するものになることを表わしている。

2　相対的価値形態と等価形態との発展関係

(等価形態の発展)

p.122　相対的価値形態の発展の程度には等価形態の発展の程度は対応する。しかし―しかもこれは十分注意すべきことであるが、等価形態の発展は相対的価値形態の発展の表現であり結果であるにすぎない。

〔浜林〕形態ⅠというのはA＝Bおさらい－Aは相対的価値形態。つまり他の商品で自分の価値を表すも。

Bが等価形態。Aに対応するBがある。

形態ⅡはA＝B、A＝C、A＝D、A＝E……

形態Ⅱが「相対的価値形態の展開された形態」である。Aは、BでもCでもDでも表せる。B、C、Dは特殊的等価物となる。

相対的価値形態が発展すると、等価形態も発展する。個別的な等価物から特殊的な等価物へ発展するということ。

最後に、ある一つの商品が一般的等価物になるのは、他の商品がAという商品に統一的価値形態をあたえるからである。

まとめると、形態Ⅰから形態Ⅱに発展すると、等価形態も発展し、個々の等価物も特殊等価形態へとなる。さらに発展すると、一般的等価形態となる。

（対立の発展）

しかし、価値形態一般が発展するのと同

じ程度で、その両極である相対的価値形態と等価形態との対立もまた発展する。

「対立も発展する」：入れ替えあも難しくなる。形態ⅠのA＝Bの入れ替えは簡単。形態Ⅱは難しくなると言っている。

　第一はの形態 ― 20エルのリンネル＝1着の上着 ― は、すでにこの対立を含んでいる‥

　形態Ⅱにおいては、つねにただ一つずつの商品種類がその相対的価値を全体的に展開しうるにすぎない。

〔浜林〕「一つずつの商品」：Aのこと。Aだけが、その相対的価値をB、C、Dでの形であらわすことができる。

‥他のすべての商品がその商品種類にたいして等価形態にあるからこそ、またその限りでのみ、その商品種類自身が展開された相対的価値形態をもつ。

‥全体的価値形態から一般的価値形態に転化させることなしには不可能である。

　あとの形態、すなわち形態Ⅲが、つねに商品世界に一般的社会的な相対的価値を形態を与えるが、それは、ただ一つの例外を除いて、商品世界に属するすべての商品が一般的等価形態から排除されているからであり、

〔浜林〕「ただ一つの例外」：Aを指している。

（A以外は一般的等価物にはなれない）

だから、リンネルという一つの商品が、他のすべての商品との直接的交換可能性の形態または直接的に社会的形態にあるのは、他のすべての商品がこの形態にないからであり、またその限りのことである。

〔浜林〕「直接的交換可能性」：交換可能性と意味は同じ。他のものと取替えられる。他のものがリンネルの代わりをしないから、取り換えらえる。

形態1　AとBは取り替えられる。

形態Ⅱ 左右を取り替えると形態Ⅲになる。

形態ⅢはC、D、Eは取り替えられない。つまりAになれない。一般的等価物になれなだからAが一般的等価物だという。

（プルードン批判）

p.125　逆に、一般的等価物の役をつとめる商品は、商品世界の統一的な、したがって一般的な相対的価値形態から排除されている。もし、リンネルが、すなわち一般的等価形態にあるなんらかの商品が、同時に一般的相対的等価形態にも参加するとすれば、

〔浜林〕空想的社会主義者は、「貧富の違いは、お金のせい」「お金をなくして物々交換の世の戻す」と考えていた。マルクスは「お金の下に隠れている人間関係が問題なのだ」と言いたい。

「逆に……排除されている」：右にあるものは、左に移れない。右から左に移れば、「20エルのリンネル=20エルのリンネル」と無意味な表現となる。お金で言えば100円は100円というだけのことである。お金は、他のものの値打ちをはかる物差しとしてしか役立たない、

３　一般的価値形態から貨幣形態への移行

（貨幣の発見）

p.125　一般的等価形態は、価値一般の一つの形態である。したがって、どの商品もこの形態をとることができる。

‥この特権的地位を歴史的にかちとったのは、特定の商品、すなわち、である。

〔浜林〕一般的価値形態つまりAは、どんな商品でもそういう形態をとれるが、Aの役割を果たすには、ある特定の商品がふさわしい。…貝殻、大きな丸い石、ラクダもの。…　人類はついに貨幣つまり金を探し当てた。貨幣商品である。それは商品世界から排除された

p.126　　D　貨幣形態

20エルのリンネル　　　 ＝

1着の上着　　　　　　　＝

10重量ポンドの茶 ＝

40重量ポンドのコーヒー ＝ 2オンス金

1クオーターの小麦　　　＝

1/2トンの鉄　　　　　　＝

x量の商品A　　　　　　 ＝

（貨幣はもとは）

p.127　形態Ⅰから形態Ⅱへの、形態Ⅱから形態Ⅲへの移行にさいしては、もろもろの本質

的な変化が起きる。これにたいして、形態Ⅳは、いまやリンネルの代わりに金が一般的等価

形態とるということのほかには、形態Ⅲと区別されるところがない。

‥いまや社会的慣習によって、商品金の独自な自然形態に最終的に癒着しているとい

〔浜林〕形態1→Ⅱ、Ⅱ→Ⅲでは本質的な変化が起こった。形態Ⅳは、リンネルの代わりに金が一般的等価物になるだけのことであった。

「独自な自然形態に…癒着」：金がお金になったと言っている。

金は他の諸商品に貨幣として相対するが、

それは、金が他の諸商品にすでに以前から商品として相対していたからにほかならない。

〔浜林〕金が他の商品にたいして、貨幣として通用するのは、金がそれ以前から商品だったからである。金ははじめ、左側につつましく一つの商品であったが、それが右側に出てきて、特権的地位を獲得する。金はしだいに一般的等価物として機能するようになり、それは貨幣になった。それだけのことで、一般的価値形態が貨幣形態に変わったということである。

（価格）

すでに貨幣形態として機能している商品たとえば金での、一商品たとえばリンネルの簡

単な相対的価値表現は、価格形態である。

〔浜林〕「価格」：価値を貨幣で表したもの。物の値段である。

了